

厚田区が目指す姿(前回協議会にて出された意見等)

①厚田を教育特区にしてはどうか。

教育に力を入れる環境は整っており、アレルギーを持つ子供にも優しい環境である。

『厚田を教育特区にしてはどうか。農林水産業という教育に必要な「環境」は整っているのですが、教育に必要な「人」である優秀な先生を集めることにより、越境入学が期待できるのではないかと。また、最近ではアレルギーを持った子供が多いが、厚田はそういったものがほとんどない環境であり、そのことを押し出して呼び込みを図ることも可能だと思ふ。』

②想いを実現させるには若者の力・情熱(パッション)が必要。

『教育特区などの構想を実現させるためには、若者の力が必要である。これは面白そうだが、できそうだからやってみようという人たちを集め、厚田を何とかしようという若者の情熱・パッションを、厚田を変えていく力にすることが大事である。』

③子供達が元気な地域は魅力的。子供たちのために力を入れるべき。

『子供たちが元気な地域にはやはり魅力があるので、子供たちのために力を入れることが必要だと思ふ。国はニートのためにお金を使うのではなく、ニートにさせないための子供への教育にお金を使ってほしい。教育特区により学校を運営している建設会社もあり、生振小では花川から通っている小学生もいると聞くので、厚田でもそういったことは可能ではないか。』

④地域の人達が芸術に親しむことのできる環境づくり。

『陶芸家や画家といった芸術家の方から、厚田の風景に惹かれてここに来たが、住むことのできる場所が意外と少ないという話を聞く。そういった方々がこの地に住んでくれれば、地域の人達が芸術に親しむことができ、更に芸術に関するイベントの開催などにより、それを楽しみに来る、買いに来るといった効果もあると思ふ。』

⑤芸術家同士のネットワーク化を促す場づくり。

『厚田にいる芸術家の方々の名簿づくりについて、教育委員会と話を進めている。ネットワーク化を図り、芸術家同士の情報交換や横のつながりを促す場所があれば面白いと思ふ。』

⑥兼業を検討している企業への誘致システムの構築。

『厚田は若者の雇用の場が少なく、それが人口流出の一因だと思ふ。本州では建設会社が農業にも参入し利益を上げているので、兼業を検討している企業などを誘致するシステムを構築してはどうか。例えば、大々的に厚田をアピールするグループを結成するなどの方法があると思ふ。それにより、若者の雇用の場が生まれ、人口流出に歯止めがかかるのではないかと。』

⑦農業就業希望者へ情報発信。

⑧後継者問題。

『農家の後継者不足により荒廃してしまった農地もある。これらの農地の情報などを、農業就業を目指す札幌圏の方々に発信して、厚田への呼び込みを図ってはどうか。』

⑨子供達がしたいと思う部活動を自由を選ぶことができる仕組みづくり。

『今の中学校では、子供たちがしたいと思う部活動(スポーツ)を自由を選ぶことができない。子供たちが好きな部活動を自由を選ぶができるような仕組みがあればと思う。』

⑩食材のブランド化。

『厚田にはおいしい食材がたくさんあるので、それら食材をブランドとして確立し魅力ある厚田をつかっていくことができればと思う。』

⑪指導者・リーダーに求められるのは創造性・工夫・バイタリティー。

『虹が原の高齢者クラブ「虹寿会」では当初、みんなで集まってゲームをしたりしていたが、好き勝手なことばかりしていると楽しいようで長続きしない。そこで半ば強引に絵を教えることを始めたが、今回のねんりんピックで厚田の風景画を展示することになった。この絵を全国の方々に見てもらえればと思っている。指導者となる人には創造性や工夫、バイタリティーを持たないといけないと思う。』

⑫観光客を呼び込む工夫。

『夕日の丘駐車場は、ライダーたちの間で聖地となっており、周囲には恋人の聖地、戸田城聖の生家があり、3つの聖地が集約されている。これらと、キャンプ場を含めた厚田公園や海浜プールなどの周辺施設をうまくリンクさせることにより観光客を呼び込むことができれば面白いと思う。』